



竹下構造設計室 竹下 章治

2月9日（水）いまにも雨の降りそうな空模様の中、汗を拭き拭き三井ガーデンホテルに着き受付をして名札・式次第を受け取り、席表を見て自分の席を確認する、席は12卓に約10席の構成となっている、ざっと計算して120名以上、例年より20~30名多い出席者である。

式次第に目を落とすと、昨年同様今年もJSCA木原会長の出席が認められ、祝宴にはなじみのHank Masaの名があるがJSCA・千葉バンドとは？と考えながら会場に入るといつもに増して活気を感じて席に着く。

開始時刻の5時になったが役員が出入り口で心配そうな顔をしている、どうやら来賓の方が遅れているようである。しかし10分程度の遅れで向後副代表の司会で会が開始され、齋藤代表の挨拶が始まった。来賓への出席御礼と若手の参加報告の後いきなり社会情勢の話で“トヨタ車のリコール問題”、“ハイチ地震”、“コンクリートから人へ”ときて急に話が変わり『新年のご挨拶』となった、珍しく緊張しているようである。その後は順調に進み最後に耐震診断で忙しい構造設計者を慰労し、意匠設計者や診断業務経験不足者の耐震判定申請の増加があり質に対する危惧を述べて締めくくった。次に来賓祝辞に移り、JSCAの木原会長から今年の本部課題として①若手・中堅・ベテランの勉強会②構造設計者に再委託する時の約款作成③構造設計に特化した損害賠償等の話をされ、先に国交省から発表された確認申請簡素化に関する基準法改定については、その内容を見守っていくとの事でした。次に、県土整備部建築指導課課長色部剛史様、並びに千葉市都市局建築保全課課長阿部茂様より、建築行政に対する感謝のおこたばを頂き今後の更なる協力要請がありました。その後、建築士会会長青柳英俊様の乾杯発声で祝宴へと移りました。

ステージのドラムやギターが気になるが、会場では料理に専念する人、ビールを片手に席を廻る人が見える中、例年と違い若い人が目立ち木原会長もその輪に入り話が弾んでいるようである。和気藹々と

会員委員会定期便

・JSCA千葉2010年度総会の日程／平成22年6月3日（木）13：30～／場所：三井ガーデンホテル・記念講演「建築空間と構造（アーキニアリング・デザインを巡って）」日本大学理工学部建築学科 名誉教授 斉藤公男先生
 ・22年3月付けで、2社の協力会員が入会されましたのでお知らせいたします／（株）構造システム・坂入様（解析プログラム）／（株）鹿島技研・坂井様（建築・土木用資材販売）



JSCA千葉協力会員のみなさん

進む中、角藤の平瀬氏の司会で協力会員の紹介が行われました。JSCA・千葉の活動を色々な面で支えてくださる各会社の方には感謝に絶えません。

いよいよ、メインのHank Masa & JSCA・千葉バンドの登場です。園部副代表のドラム、佐藤委員のギターに真崎監事(ハンク・マサ)のボーカルの構成で3人での練習は4回だけとのこと、果たして大丈夫か、見ているほうがドキドキしてきました。観客の緊張が伝染したのかいきなり一曲目で躓いてしまいました、しかしこのアクシデントは会場の雰囲気や和ませたようでその後は素人バンドとしてはまずまずの出来でした。最後に園部副代表からバンドへの参加を呼びかけで終演。

閉会の辞は園部副代表の三本締めで無事新年の会を終了しました。幹事方々、開催運営に協力された皆さんご苦労様でした。



デビューしたハンクマサ&JSCA千葉バンド

2/23・3/23 「若手向け構造設計研修会」が開催されました

(有)市原建築構造設計事務所 依田 実

去る平成22年2月23日（火）建築会館8階にてJSCA千葉若手向け構造設計勉強会（RC編）が開催されました。講師にはJSCA千葉の構造設計事務所である株式会社 向後構造設計事務所の秋山秀之氏、有限会社 市原建築構造設計事務所の市原嗣久氏に担当していただき、聴講生は行政庁関係約35名、構造設計事務所約30名の計約65名にて行われました。

講義第一部は秋山氏が担当し、RCの材料特性、許容応力度、断面算定、部材の破壊形式など初級者に分かりやすく、設計のみならず工事監理上のチェックポイントもお話しされました。上級者にも飽きさせない内容でした。

講義第二部は市原氏が担当し、既存RC構造物の耐震診断と耐震補強設計業務の大まかなポイント、進め方、心構えを説明され、また業務の苦労話も聞かせて頂きました。その他にE-Defenceによる鉄骨ブレースを組み込んだRC構造物の実大振動実験の動画も見せていただき大変勉強になりました。

最後に質疑応答を行い、講師陣と聴講生の活発な意見交換が行われ非常に今後の業務の参考となる内容でした。

勉強会終了後、若手有志にて懇親会が行われJSCA千葉の若手同士の親睦が深まり、お互いの技術向上、情報交換、人脈形成が図れたと思います。大変有意義な一日となりました。

最後に、故内藤多伸先生の耐震建築五訓より鉄骨鉄筋ビル【君知るや壊れたためしまだ聞かぬ鉄骨入りの鉄筋のビル】



2/23 熱気に包まれたRC編若手勉強会

(有)飯島建築構造事務所 木村将士

去る平成22年3月23日（火）、建築会館8階に於いてJSCA千葉若手向け構造設計研修会（S造編）が開催されました。

講師には(有)SPC設計の園部隆夫氏に担当していただき、聴講生には行政庁関係が約40名、構造設計事務所が約30名の計70名で行われました。短時間の間にS造の全てを網羅する事はかなり困難でしたため、ポイントを押さえつつの講義となりました。

構造設計者として図面を作図する事が何よりも一番重要であると教えていただきました。細部のディテールを最初に思い浮かべて設計を進めることで、構造物全体の設計につながるというものでした。

私は主に補強設計を担当しており新築設計を行う機会は少ないのですが、やはり重要なのは細部のディテールであり、まずはそこに着目すべきとお話でした。また溶接箇所の入熱管理など、監理業務における着目点もお話いただきました。

さらに応力の伝達、各部材の材質など、構造設計における基本である構造力学の要素、その根本的な考え方がS造の設計の中に詰まっているという事を再認識出来ました。

屋内運動場等の鉄骨造の補強設計が多い現在、既存部材に如何にして補強部材を極端な応力集中を防いで設置するのか、改めて考えさせられる非常に有意義な講義となりました。

講義の後半は僅かな時間でしたがSRC造についても触れることができました。やはり重要なのは接合部などの細部のディテールということでした。さらに柱脚は埋め込み式の方が設計しやすいなど、園部氏の経験からくるノウハウの一部を教えてくださいました。そしてSRC造はRC造とS造の組み合わせであるため、両構造の設計が満足にできない人には困難であるとお話でした。

残念ながら私にはまだSRC造を満足に設計できるほどの知識・経験が不足していますが、このような勉強会を経て少しでも多く実務に活かすように努力したいと考えております。また、構造設計事務所からの参加者は私よりももっと若手の皆さんもいます。彼等と今後も良き仲間として、時には好敵手としてお互い切磋琢磨していければと思っています。